

# 世界のパイプが一堂に！ ～バグパイプ博覧会～



「バグパイプ」という楽器は、風袋にリード付の管を取り付けて、袋の中の空気を押し出して鳴らす楽器の総称。よく緑日の屋台で、ゴム風船に竹筒から息を吹き込んで竹筒を口から放すと、プーと鳴り続けるおもちゃがありますが、あれがバグパイプの最も簡単な原理です。構造としては「空気をためる風袋」「風袋に空気を吹き込むための管またはふいご」「メロディーを奏するチャンター管」「一定の音を鳴らし続けるドローン管」からできています。ドローン管は無いものもあります。

日本や中国には残念ながらバグパイプが無いので、あまりなじみが無いかもしれませんが、有名なイギリス・スコットランドのバグパイプは見たことのある人が多いでしょうし、日本人愛好家もたくさんいます。しかし、実はスコットランド以外にもヨーロッパ、北アフリカ、中近東、アジアにかけて、たくさんのバグパイプがあるのです。基本的には庶民、牧畜民、農民の間で発達した楽器ですが、18世紀にはフランス宮廷でも大流行しました。

さて、そんなバグパイプを愛する演奏家、作家が日本中から集まって、おそらく日本で初めての、多種多様なバグパイプの祭典「バグパイプ博覧会」を8月6日(土)7日(日)に開催しました。東京のバグパイプ奏者・作家の近藤治夫さんが中心となって

実行委員会を組織し、楽器博物館も全面共催で実現しました。

6日午後6時45分からは音楽工房ホールで第117回のレクチャーコンサート「バグパイプ博覧会」。関西、関東、遠くは北海道からも、日本中のバグパイプを愛する人が協力していただき、ドイツからも1人加わって演奏者は10人。ヨーロッパのルネサンス、バロック時代のバグパイプから始まって、今も使われているブルガリアのガイダ、ボヘミアのドゥディ、スペインのガイタ、ドイツのドゥーゼルザック、スウェーデンのセックピーバ、フランスのパロック・ミュゼット、キャブレット、コルヌミュージ、スコットランドのハイランドパイプ、スコティッシュ・スモールパイプ、イングランドのノーザンブリアン・スモールパイプ、アイルランドのイーリアン・パイプ、日本製の電子バグパイプが登場しました。それぞれの説明と演奏が10分ずつ行われ、2時間半があつという間に終了。最後はアメイジング・グレイスを登場したすべてのバグパイプの世界初の合奏でしめくり、盛大に終演しました。

出演者は近藤治夫、上尾直毅、菅原大輔、大野慎矢、蘭田徹、堀隆雄、長瀬久美子、山根篤、原口トアキ、Koji Koji Moheji の皆さん。(2面に続く)



このバグパイプ博覧会では、レクチャーコンサートのほかに、展示室での日中のミニコンサートとバグパイプの展覧会が行われました。

8月6日(土)7日(日)は午前11時から天空ホールにてミニコンサート。出演者は6日のレクチャーコンサートの出演者に加えて、西は山口県から参加の方も含め、18団体・個人の統計50人にものぼりました。

6日は、イギリスのハイランド・パイプ、スコティッシュ・スモールパイプ(山根篤・山根京子)、フランスのバロック・ミュゼットとヴァイオリン(上尾直毅・荒木優子)、ハイランド・パイプ(杉山憲司)、ヨーロッパのルネサンス・パイプ(アンサンブル・コルヌミュージズ)、

アイルランドのイーリアン・パイプ(Reeds of Greed)、ドイツのドゥーゼルザックほか(ジャン座)、スペインのガリシアン・ギタ(Kojikoji Moheji)、電子バグパイプほか(菅原大輔・辻康介・横田誠三)、イーリアン・パイプほか(中津井眞・深江健一)、フランスのキャブレットほか(La Zoneと仲間たち)。7日はルネサンス・パイプ(ザ・プリュージェルバンド)、イーリアン・パイプほか(生梅)、イギリスのボーダー・パイプ(小川満大)、ブルガリアのガイダほか(グロスダンカ)、ハイランド・パイプ(ハイランド・パイパーズ)、それに6日にも出演されたLa Zoneと仲間たち、中津井誠・深江健一、Kojikoji Mohejiの皆さん。それぞれ

30分間の持ち時間で、お話や演奏をたっぷりと披露していただきました。

また展示室内にはバグパイプ作家の展示ブースも設置。ドイツから藺田徹さん、北海道から中津井誠さん、東京から近藤治夫さん、それにリード製作の田口和則さん（6日のみ）が自作品やCD、教則本などを展示され、見学者からたくさんの質問を受けておられました。

ヨーロッパでは、このようなバグパイプ愛好家の大規模な集いがしばしば開催されるとのことですが、日本ではおそらく初めての試み。参加された皆さんは「是非いつかもう一度バージョンアップして開催できれば良いね」、見学者からは「世界のバグパイプが見れて、聴けて、大変楽しかったです。」との声。

### レクチャーコンサート 第114回 「中央アジア・キルギスの“コムズ”」

“コムズ”とはキルギス共和国で「楽器」を意味しますが、中でも中心となるのが弦楽器のコムズです。洋ナシ形の胴体に長い棹が付き3本の弦が張ってあります。通常ギターのように構えて指ではじいて演奏しますが、肩に乗せて演奏したり、隣に座っている人のコムズを弾いたりといった曲芸的なパフォーマンスもします。また、この機会に是非キルギスについて知ってほしいということで、たくさんの写真を使ってキルギス共和国とその文化が紹介されました。また、弦楽器以外にも鉄製口琴の「テミル・コムズ」や竹製口琴も紹介されました。この竹製口琴は日本のアイヌ民族の竹製口琴“ムックリ”によく似ています。

素朴で繊細ですが時に力強い「見せる」要素をあわせ持ったキルギス音楽を楽しみました。

展示会のほうは8月8日（土）から31日（水）。世界中のバグパイプ50点余を展示しました。バグパイプのコレクターである榎康治さんからお借りしたものがほとんどですが、楽器博物館所蔵のものも数点。民衆に愛された楽器バグパイプの世界を堪能した8月でした。

最後になりましたが、この博覧会の企画をして頂いた実行委員会の近藤治夫さん、上尾直毅さん、山根篤さんに心より感謝申し上げます。

#### ミュージアムサロン

日時：平成23年8月6日（土） 11:00～16:00

平成23年8月7日（日） 11:00～16:00

会場：展示室天空ホール 入場者：841人

#### レクチャーコンサート

日時：平成23年8月6日（土） 18:45～20:45

会場：音楽工房ホール 入場者：162人



日時：平成23年7月16日（土） 18:30～20:00

会場：展示室天空ホール

出演：ウメトバエフ・カリマン 石坂由美子

入場者：49人

### レクチャーコンサート 第118回 「アラブ音楽の精髓“ウード”」



日時：8月27日（土） 18:30～20:00

会場：展示室天空ホール 出演：常味裕司、和田啓

入場者：72人

ウードはアラブ諸国をはじめトルコなどたくさんの国で演奏されています。洋ナシ形の胴は、木片を型に合わせ繋いでいく寄木細工。楽器の前面には“太陽”と“月”を意味する透かし彫りが施されたとても美しい楽器です。ウードがヨーロッパに伝わりリュートになり、そのウードの祖先は“バルバット”と考えられています。これが東に伝わって中国や日本で“琵琶”になりました。

日本では数少ないウード奏者の常味さんとレク奏者和田さんが、西アジアの音階をつかさどる理論「マカーム」や、10拍子や7拍子といった独特のリズムを実演を交えながら説明しました。マカームはヨーロッパの音階とは異なりドとレの間を9分割する為、メロディーに独特な色合いが出るそうです。常味さんは「向こうに行く度に、音楽を聞けば聞くほど音楽の豊かさを感じる」とおっしゃっていました。演奏会ではトルコやチュニジア、エジプトなどアラブ諸国の音楽をたっぷり楽しみました。アンコールではお客様が飛び入りでダンスを踊ってくださり、会場はとても盛り上がりしました。

# ジャワ・ガムランと世界遺産ワヤン・クリ



7月23日(土)24日(日)に音楽工房ホールでインドネシアの伝統音楽と世界遺産の影絵芝居を上演しました。23日は午後2時から第115回レクチャーコンサート「ジャワ・ガムランの世界～古典から現代まで～」。24日は午後2時から第116回「影絵幻想～ジャワのワヤン・クリ」。

23日は青銅のオーケストラと言われるガムランとジャワ舞踏を楽しみました。演奏はガムランネット・ジャパンウエスト、舞踏は佐久間ウィヤンタリ、佐久間新さんのお2人。プログラムはウィルジュンほかの古典曲3曲ほかと、宮廷舞踏ブクサン・スリカンディ・ビスモ。女性戦士スリカンディと武芸の達人ビスモとの戦いは緊張感あふれる名演でした。最後は、客席からのテーマを元にガムランで即興演奏するという現代ならではのガムラン演奏が行われました。

ワヤン・クリは厚さ2ミリほどの水牛皮でできた平たい人形を、たったひとりのダラン(人形遣い兼語り部)が操ります。ダランの手にかかる、歩いて走って、跳びはねて飛んで、宙返りして・・・と人形に命が入ります。人形は彩色されているのでダランの側から見るのも美しいのですが、醍醐味はやはり影です。スクリーンに映し出されるモノトーンの影絵

は実物とは異なる幻想的な世界。伴奏するガムランの金属質の響きもまた異次元の世界。素晴らしい伝統芸術です。

出演はジャワ出身で日本在住のダラン、ローフィット・イブラヒムさんと、ガムランネット・ジャパンウエスト、プシンデン(女声)にジャワからワヒューさん、バンジャ(ダランの助手)とガムランに、ジャワからスマルヨノさん、アナント・ウィチャクソノさん。地元の電子楽器メーカー、ローランド株式会社の協力で、最新のシンセサイザーも加えてガムランとの現代の音の世界も創ってみました。

ダランの言葉はジャワ語なのでわかりませんが、音楽と人形の動きだけでもとても楽しめます。130人ほどのお客さんも、お話が進むにつれてぐんぐんと引き込まれました。途中の道化登場の場面では、語りも日本語になりお客さんも大爆笑。息詰まる戦いや静かな瞑想の場面など見せ場も一杯。2時間半の公演は大喝采で終了しました。

「ジャワ・ガムランの世界～古典から現代まで～」

日時：平成23年7月23日(土) 14:00～16:00

会場：音楽工房ホール 入場者：109人

「影絵幻想～ジャワのワヤン・クリ」

日時：平成23年7月24日(日) 14:00～16:00

会場：音楽工房ホール 入場者：124人

# 得意の楽器を披露！～市民サロンコンサート～



カリンカ・マリンカ



坂本佐智子



大村きよ子



響兄弟



えんじろう



浜松コンソートオブヴァイオルス



中津川百世・藤本恵子



大石麻衣子・川合輝子



カントリーフロンティア

8月20日(土)午後1時20分から3時間、楽器博物館初の試み「市民サロンコンサート」を開催しました。「ミュージアムサロン」というのは楽器博物館のひとつのイベントシリーズで、開館中に、地下の天空ホールで行うミニコンサートまたはミニレクチャーのことで、通常は入館者の多い日曜日の午後、2時と3時半の2回、各20～30分間くらいの演奏やお話をしています。博物館の職員が自分の得意の楽器を演奏したり、館外からゲストを招いたりします。

今回の市民サロンコンサートは、浜松市民のアマチュア音楽家を公募審査して行われた市民参加型の催しです。夏休みは、市外や県外からたくさんの観光客がいらっしゃるの、その方々を歓迎するという意味も込めて、9組の出演者が自慢の腕を披露しました。

まずは電子楽器「マトリョミン」のアンサンブル「カリンカ・マリンカ」の皆さん。ロシアの民芸人形マトリョーシカに組み込んだ電子楽器テルミンの、不思議で、でもどこか癒される音色にお客さんはうっとり。2番目は坂本佐智子さんのアルトサクソフ・ソロ。甘い音色でロマンティックな曲の数々。3番目は大村きよ子さんと長唄を三味線とともに、「和」の心を味わいました。4番目は秋

口響哉(あきぐちおとや)君(小6)、史響(しおん)君(小5)の「響兄弟」。お兄ちゃんのトロンボーンと弟のホルネットのデュオです。それに妹の可響(かのん)ちゃん(小3)が笛やタンバリンで花を添えました。ジャズは最高のノリでした。5番目はえんじろうさんでオカリナのソロ。客席からの歌をオカリナのオブリガートが鮮やかに包みました。6番目は「浜松コンソートオブヴァイオルス」の皆さんで古楽器ヴィオラ・ダ・ガンバのアンサンブル。雰囲気は西洋のルネサンス、バロック時代に。7番目は中津川百世さん、藤本恵子さんでピアノ連弾。ピアノの情熱的な曲を披露してくださいました。8番目は大石麻衣子さん(ソプラノ)と川合輝子さん(電子チェンバロ)でオペラ・アリアほかの優雅なひととき。そして最後9番目はブルーグラス・バンド「カントリーフロンティア」の男性5人組。にぎやかに、そしてしみりと、アメリカ・カントリーミュージックでコンサートを締めくくっていただきました。

クラシックあり、ポップスあり、ジャズあり、邦楽あり、ととても楽しいプログラムで、演奏者も入館者も音楽を楽しんだ午後でした。出演して下さった皆さん、有難うございました。

日時：8月20日(土) 13:20～16:20  
会場：展示室天空ホール 入場者：300人

# 大盛況！もりだくさんの夏休みミニコンサート！



バンジョー



アルパ



ミュージカルソー



室内楽



オカリナ・アンサンブル



サクソフォン



トuba

本年も親子連れで賑わう夏休み期間にあわせて、たくさんの展示室ミニコンサートを開催しました。

第一弾は、浜松市を中心に音楽活動を支援されているアンサンブル・ムジーク浜松との共催で、8月26日(火)日独演奏者による室内楽コンサート。ゲッツ・ハルトマンさん(ヴァイオリン)、石塚和美さん(ヴァイオリン)、ローズマリー・ケラーさん(ヴィオラ)、櫻井健さん(チェロ)、伊藤絢さん(ピアノ)によってピアノ五重奏曲や弦楽四重奏曲を演奏しました。8月10日(水)は「トッパ共和国の楽器」と題して、モンゴルの北西に位置するロシア連邦トッパ共和国の音楽を等々力政彦さんによる演奏で紹介しました。「トシュブルール」「イギル」という弦楽器、口に当ててはじいて鳴らす口琴の仲間「ホムス」に加えて、モンゴルの歌唱法ホーミーに似た「フーメイ」などを披露しました。

8月13日(土)は、イタリア生まれの笛「オカリナ」とカモシカの角で作られた笛「ゲムスホルン」でフランスの古曲やアニメ曲まで幅広いジャンルの曲を演奏しました。演奏は、スイートポテト・オカリナ合奏団。小さい子どもから大人まで楽しめたコンサートでした。8月14日(日)は、浜松市で演奏活動をされている浜松サクソフォンクラブの皆さん総勢16人によるサクソフォンだけの大アンサンブルを楽しみました。珍しいバス・サクソフォンも登場し、迫力のある演奏

を楽しみました。8月21日(日)は、南米のハーブ「アルパ」を長島忠之さんによる演奏で紹介しました。同じく、南米の楽器「チャランゴ」をペルー出身のパブロ・カルロスさんが演奏し、コーヒールンバなどの名曲を楽しみました。演奏後は、アルパの体験を行い多くの方がアルパに触れられていました。8月25日(木)は、ノコギリの楽器「ミュージカル・ソー」を日本で唯一製作されている稲山訓央さんの演奏で紹介しました。西洋式のノコギリをヴァイオリンの弓で擦ることで発する独特な響きに魅了されました。8月28日(日)は、5月に横浜で開催された第5回バンジョープレイヤーコンテストの優勝者吉原聡さんを招き「バンジョー」のコンサートを行いました。夏休み期間ということもあり、各コンサートは多くの聴衆で賑わいました。

- 7/26(火) 14:00～14:30  
「日独演奏者による室内楽の愉しみ」 参加者：47人
- 8/10(水) 14:00～14:30、15:30～16:00  
「トッパ共和国の楽器」 参加者：89人
- 8/13(土) 14:00～14:30、15:30～16:00  
「オカリナ・アンサンブル」 参加者：181人
- 8/14(日) 14:00～14:30、15:30～16:00  
「サクソフォン・アンサンブル」 参加者：190人
- 8/21(日) 14:00～14:30、15:30～16:00  
「南米のハーブ「アルパ」」 参加者：235人
- 8/25(木) 14:00～14:30、15:30～16:00  
「ミュージカル・ソー」 参加者：168人
- 8/28(日) 14:00～14:30、15:30～16:00  
「バンジョー」 参加者：220人

## 講座「民族楽器による音楽セラピー」



この講座は昨年度大変好評を博しましたので今年度も引き続き開催しました。

音楽セラピー（音楽療法）とは音楽を聴いたり、演奏したりすることで心身の健康の向上を図るもの、これまでは身体的な回復を目的としたものが主流でしたが、近年では、「音楽がもつ心理的効果によって精神の回復を図り、同時に身体機能をも向上させる」という効果に重点が置かれています。

講師のロビン・ロイドさんは民族楽器の持つヒーリング効果を紹介し、高齢者や障害者への音楽療法で注目されているミュージシャンです。

ロビンさんの民族楽器の後、楽器の使い方や、障害者用に考案した指一本で音が鳴らせる楽器などが紹介されました。その後全員が楽器を持



ち各自が障害者になりきって演奏し、どう感じるかという体験をしました。音楽セラピーは具体的にどんな効果があるのかといったロビンさんの体験談を中心としたお話しがあり、参加者は熱心にメモを取りながら聞き入っていました。参加者の中には障害者施設や支援学校にお勤めの方もおられ、普段抱えている疑問や質問を熱心に質問されました。「相談できて良かった」「また、是非参加したい」といったお声をいただきました。

日時：平成23年8月28日（日） 14:00～16:00

会場：アクトシティ研修交流センター

講師：ロビン・ロイド

参加者：22人

## 特別展「人形たちのシンフォニー」閉幕



日時：平成23年8月3日（水）

18:45～20:15

会場：楽器博物館展示室

講師：西岡信雄 参加者：26人

7月28日（木）から開催されていた特別展「人形たちのシンフォニー～そのかわいい姿が楽器の古今を物語る～」が8月31日（水）に閉幕しました。この展覧会では世界一の人形コレクションと言える大阪音楽大学音楽博物館が所蔵する〈楽器を演奏する姿の人形〉1600体のほかに、浜松市楽器博物館所蔵の人形50体、個人所蔵のもの50体の計1700体を展示しました。小指の爪ほどのものから、90センチほどのものまで大きさは色々。素材も、木、鉄、ガラス、粘土、竹、紙と様々。世界各地の人形はお国ぶりもよくわかり、愛らしい表情で人々を魅了しました。会期中の見学者は15,651人。3日（水）午後6時から、この人形の元所有者で収集者でもある大阪音楽大学名誉教授西岡信雄さんの「音楽史の証人・楽器を奏でる人形たち」の講演会も行われ、人形からひもとく楽器や音楽のお話に参加者は聞き入っていました。展示した人形のほとんどを掲載した図録「人形たちのシンフォニー」（A4版82ページフルカラー800円）も完成。楽器博物館ミュージアムショップにてお求めいただけます。



## ◆これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説  
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日1時間毎  
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- レクチャーコンサート  
「チター〜森のささやき・森の優しさ〜」  
9/9(金) 19:00 展示室天空ホール  
「青銅の煌き〜バリ・ガムランの音世界〜」  
9/11(日) 18:30 展示室天空ホール  
「江戸の風流〜東流二絃琴〜」  
10/30(日) 18:30 展示室天空ホール  
「北風のきらめき〜ノルウェーのラングレイク〜」  
11/19(土) 18:30 展示室天空ホール
- イブニングサロン  
「古楽の愉しみ」  
9/23(金) 18:45 & 9/24(土) 18:30 展示室天空ホール  
「国際古楽コンクール《山梨》優勝者コンサート  
マザランの贈り物」  
11/12(土) 18:30 展示室天空ホール  
「ドーヴァー海峡の向こう側」  
11/26(土) 18:30 展示室天空ホール
- ミュージアムサロン  
「電子チェンバロの集い」  
10/1(土) 14:00〜16:00
- 講座  
「アフリカ民族音楽紀行」(全5回)  
第1回「海岸に花開いたスワヒリ文化」 10/8(土)  
第2回「南アフリカのポリフォニー」 1/14(土)  
第3回「コンゴ川を渡る」 3/3(土)  
第4回「ギニア湾岸の三角貿易」 3/10(土)  
第5回「サヘルグリオたち」 3/17(土)  
いずれも 14:00〜16:00 楽器博物館展示室

## ◆博物館日誌

- 7/1(金) 市制記念日 無料入館日 入館者: 378人
- 7/16(土) レクチャーコンサート  
「中央アジア・キルギスの“コムズ”」  
18:30 展示室天空ホール  
出演: ウェトバエワ・カリマン、石坂由美子  
入場者: 49人
- 7/23(土) レクチャーコンサート  
「ジャワ・ガムランの世界〜古典から現代まで〜」  
14:00 音楽工房ホール  
出演: ガムランネット・ジャバングエスト(音楽)、  
佐久間ウィヤンタリ、佐久間新(舞踊)  
入場者: 109人
- 7/24(日) レクチャーコンサート  
「影絵幻想〜ジャワのワヤン・クリ」  
14:00 音楽工房ホール  
出演: ローフィット・イブラヒム(ダラン)  
ガムランネット・ジャバングエスト(ガムラン) ほか  
入場者: 132人
- 7/26(火) ミニコンサート  
「日独演奏家による室内楽の愉しみ」  
14:00 天空ホール  
出演: ゲッツ・ハルトマン、石塚和美、ローズマリー・  
ケラー、櫻井健、伊藤純  
参加者: 47人

- 7/28(木)〜8/31(水) 特別展  
「人形たちのシンフォニー〜そのかわいい姿が楽器  
の古今を物語る〜」  
入場者: 15076人
- 8/3(水) 講演会  
「音楽史の証人〜楽器を奏でる人形たち〜」  
18:45 楽器博物館展示室  
講師: 西岡信雄(楽器博物館名誉館長)  
参加者: 26人
- 8/6(土)〜8/31(水) 特別企画「バグバイブ博覧会」展示  
入場者: 12717人
- 8/6(土) バグバイブ博覧会サロンコンサート  
11:00〜16:00 展示室天空ホール  
出演者: アンサンブル・コルヌミュージズ、ほか  
参加者: 374人
- 8/6(土) レクチャーコンサート  
「バグバイブ博覧会」  
18:45 音楽工房ホール  
出演: 近藤治夫、上尾直毅、山根篤、原口トヨアキ、  
KojiKojiMoheji、大野慎矢、長瀬久美子、苗田徹、堀  
隆雄、菅原大輔  
入場者: 162人
- 8/7(日) バグバイブ博覧会サロンコンサート  
11:00〜15:00 展示室天空ホール  
出演者: ザ・プリューゲルバンドほか  
参加者: 467人
- 8/10(水) ミュージアムサロン  
「トゥバ共和国の楽器」 14:00、15:30  
展示室天空ホール 出演: 等々力政彦  
参加者: 89人
- 8/13(土) ミュージアムサロン  
「オカリナ・アンサンブル」 14:00、15:30  
展示室天空ホール 出演: スイートポテトオカリナ合奏団  
参加者: 181人
- 8/14(日) ミュージアムサロン  
「サクソフォン・アンサンブル」 14:00、15:30  
展示室天空ホール 出演: 浜松サクソフォンクラブ  
参加者: 190人
- 8/20(土) ミュージアムサロン  
「市民コンサート」 13:20〜16:20  
展示室天空ホール 出演: 市民演奏家9組 27人  
参加者: 300人
- 8/21(日) 県民の日 無料入館日 入館者: 1538人
- 8/21(日) ミュージアムサロン  
「南米のハーブ “アルパ”」 14:00、15:30  
展示室天空ホール 出演: 長島忠之ほか  
参加者: 235人
- 8/23(火)〜8/30(火) 学芸員実習 実習生: 7人
- 8/25(木) ミュージアムサロン  
「ミュージカルソー」 14:00、15:30  
展示室天空ホール 出演: 稲山剛央  
参加者: 168人
- 8/27(土) レクチャーコンサート  
「アラブ音楽の精髓 “ウード”」  
18:30 展示室天空ホール 出演: 常味裕司(ウード)、  
和田啓(レク) 入場者: 72人
- 8/28(日) ミュージアムサロン  
「バンジョー」 14:00、15:30 展示室天空ホール  
出演: 吉原聡ほか 参加者: 220人
- 8/28(日) 講座「民族楽器による音楽セラピー」 14:00  
研修交流センター 講師: ロビン・ロイド  
参加者: 22人

### 利用案内

常設展観覧料: 大人400円 高校生200円  
中学生以下・障害者・高齢者(70歳以上)は無料  
開館時間: 9:30〜17:00  
休館日: 毎月第2・4水曜日(祝日の時は翌日)、年末年始、  
その他施設点検等のための臨時休館日

### 浜松市楽器博物館だより

平成23年9月1日発行 No.65  
編集 浜松市楽器博物館  
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1  
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129  
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp  
URL <http://www.gakkihaku.jp/>

お知らせ: 「浜松市楽器博物館だより」は、ホームページからも見ることができます。また、ホームページでは最新のイベント情報も紹介しています。ぜひご覧ください。